

津房地区公民館便り

編集・発行
津房地区公民館

電話番号
48-2001



3月23日(土)「ふらっと立ち寄り大歓迎です」 第3回「茶飲みの市」です

今年度より津房地区公民館で、フリーマーケットを始め、昨年七月と十一月に「市」を開きました。二回とも約三十名近くの方が来られて、物品の売買や喫茶、談笑を楽しんでくださいました。

二回目同様、今回も安心院高校に生徒のボランティアをお願いしました。

※残念ながら、今回安心院高校の園芸マネジメントコースの作物は、時期が合わずありません。

今年度の、七月と十一月に開催予定の市には出品していただけたという約束をしてくださいました。

今回は、「出品を増やす」ことを目当てに…
各家庭での不用品のバザーをします。

そこで、各ご家庭で「これいらないから処分しよう」というような、贈答品などがありましたら、津房地区公民館にご寄付をお願いいたします。

バザー用品の募集

○各家庭で不要な物品(未使用・未开封、食品の場合賞味期限の切れていないもの)



○三月二十二日(金)までに、公民館に持ってきてください

○売上金は、公民館の活動費として使わせていただくことをご了承ください。

なお、当日公民館にいられて、フリーマーケットで販売される方は、お茶代の五十円をいただくのみです。

バザー用品を持ち込まれる方は、火・水・金でお願いします。

ご不明な点がございましたら、公民館の井福にお問い合わせください。

☎48-2001

雛飾りを見に来ませんか?

齢六十一にして、初めて雛飾りに触れ、初めて飾り付けました。説明書やネットを参考に、会議室のステージに組み立てました。
箱には津房保育園様と佐藤秋利様の名があり、寄贈いただいたものようです。

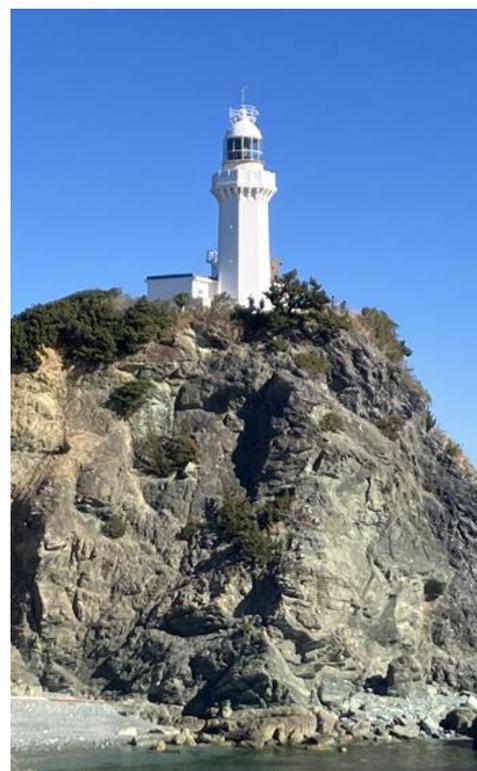


愛媛県伊方町に行ってきました

愛媛県伊方町は佐田岬半島そのものが一つの町で、ちょうど三波川変成帯というマグマが冷え固まった大きな岩盤の上にあります。だから、下の写真のように海岸からすぐに切り立った崖になっています。

よって、ほとんど平地がなく、漁業と山の斜面を利用した柑橘類の栽培を生業（なりわい）とする生活が基本の町でした。

人口は8,000人ほどで、過疎化が進んでいるようでした。



半島の最西端の佐田岬灯台

佐賀関から船で三崎港に渡り、車で佐田岬灯台を目指しました。道は狭く、カーブの連続で、ちょうど院内町の羽馬札に向かうような感じの道のりでした(十四km)。

日当たりのよい南側の斜面のわずかな場所に黄色い実をつけた八朔(はつきく)らしきものが植えられ、道行きに見かけるのは年配の方ばかりでした。↓元気に働いている!きつと毎日山の急斜面を歩き来しながら、収穫しているのだろうと想像します。

私たちが暮らしている津房も山の中の集落ですが、それでもまだ、川沿いに田んぼにする平地があり、移動するための道路も整備されています。安直ですが、伊方で生活する皆さんに負けてはいられないと感じました。

伊方町では、人口が減少していくなかで、町を盛り上げようと温泉を復活させたり、博物館を作ったりしているようですが、人口減には歯止めがかからないとのこと。わが安心院町・津房地区はいかにして集落機能を維持していくべきでしょうか?